

## 平成29年3月3日の横田基地所属C-130Hの燃料漏れについて

3月3日の燃料漏れについて、当局から米側に対して質問（3月4日送付）をしておりその回答は以下のとおり。

質問①今回燃料が漏れた具体的な場所について。

回答：燃料漏れは、C-130のエプロンにおいて発生しました。

質問②今回燃料が漏れた原因について

回答：整備班がエンジンを取り外した際に、誤って航空機燃料JP-8が漏出しました。直ちに対応して、漏出をくいとめました。

質問③今回燃料がもれた原因は、C-130Hの機体自体が原因なのでしょうか、仮に機体自体が原因であれば、横田基地に所属するC-130H全機の運用を止めて、安全性の確認を行っているのでしょうか。

回答：今回の燃料漏れは航空機自体が原因ではないため、横田基地の他のC-130に関しては問題はありません。

質問④今回漏れた燃料の具体的な回収・清掃の作業内容について

回答：燃料漏れが起こった際は、出来るだけ迅速かつ効率的に回収作業を行います。今回の場合は、POL（石油、オイル、潤滑油の略）吸収パッドで漏出した燃料を吸収し、使用後のパッドは有害廃棄物として適切に廃棄されました。環境保護は第374空輸航空団にとって重要です。我々の人員は、今回の燃料漏出の被害が大きくなるように、迅速かつ適切な対応をしました。

質問⑤今回行っていたC-130Hの整備の内容について

回答：今回の燃料漏出は、整備班が標準どおりの整備作業を行うためにエンジンを取り外した際に発生しました。

質問⑥今回燃料が漏れたことによる、今後の再発防止策について何か実施されているのでしょうか。

回答：空軍は今回のような件を非常に重大だととらえています。漏出がどのように発生し、燃料をどのように処理したかを報告する事後報告会議を行う予定です。再発防止のために、追加の訓練を行う場合もあります。

質問⑦今回の情報の中でフライトライン上のコンクリートパッドとは横田飛行場の滑走路上のコンクリート舗装部分との理解でよろしいでしょうか。

回答：コンクリートパッドとは、滑走路脇にあるエプロンをさします。

質問⑧ 今回の燃料が漏れた部分はフライトライン上のコンクリートパッドのみ漏れたのでしょうか、それとも他のエリアにも漏れたのでしょうか。

回答：燃料漏出は、航空機が駐機されたエプロン上において半径40フィート（半径12メートル）の範囲にわたりました。

質問⑨ 今回漏れた燃料は、航空機燃料のことでしょうか、それともその他の燃料のことでしょうか。

回答：航空機燃料のJP-8です。

質問⑩ 今回の情報で、環境への影響がないことを確認済みとのことですが、具体的にどのように確認して影響がないと判断されたのでしょうか。

回答：漏出した燃料は、滑走路の外には流れ出さなかったため、環境への影響はないものと判断しました。横田基地の人員による迅速な対応で、燃料は土壌および水路を汚染することなく処理されました。環境保護は第374空輸航空団にとって重要です。我々の人員は迅速かつ適切な対応で、被害が大きくなるのを食い止めました。